

ゆうかり放送委員会提供
ゆうかりに乾杯
第12回放送の概要 (2010年1月23日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)
コアラさんの地域瓦版
アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM)「7つ 8つ 9つ とぅ といち」でおなじみの「十一の奈良漬」は、「灘の生一本」の酒粕に漬け込み仕上げた自慢の味です。食事の締めくくり、サンドウィッチや巻寿司などにも御愛用ください。今日は、「十一の奈良漬」黒田食品さまの御協力を頂きました。

1. オープニング

阪神・淡路大震災から15年、自分がもし目の前で肉親を亡くしたりしていたら昨日のこのように心の中の時計は止まってしまっていると思う。今年は新長田駅前の追悼行事にはいけなかった。昨年は涙を流している若い方がいたがどうしても声をかけられなかった。垂水に住んでいた自分は生活の不自由さはあったが、肉親も怪我をせずいられたのでとてもありがたいことです。16日は同期の「歩く会」で大正筋も歩いたが、大学時代のバイトでその付近に来た時平日だったが人が多く、暖かく怖いくらいの活気にあふれていた。今は商店街はすっかり美しく変わってしまったが、シャッターが閉まった店舗が多く、昔の人の温もりが感じられず寂しさを感じた。昔の活気を少しでも取り戻すことが残された者のやるべきことと感じた。

2. ゲストコーナー：一級建築士の竹中郁雄さん (61 陽会)

(1) 竹中さんはブラーマ 190 という建築士事務所を経営されている。自分の名前を事務所名にする人が多いが、竹中は有名な工務店との関連があるように思われるので、ギリシャ神話の創造の神である「ブラーマ」からとったもの。破壊の神という意味もあるとも言われている。「190」は名前の「イクオ」からとったものである。建築では1,9,0はよく使う数字でもある。鶴越小学校、夢野中学校から兵庫高校に入った。高校では剣道部に所属していたが神戸高校との定期戦では3年連続負けて坊主になった。当時の思い出話としてはクラブの部室はバラックで体育の授業では女子の更衣室となるのでテニス部の部室から天井に上がり覗いていたことがある。この時爆竹を鳴らすものがいてチョンばれし先生からこっぴどくしかられた。しかし今から考えるとやさしく暖かくしかられその場限りの注意で済んだ。

(2) その竹中さんは今十何年間もPTAに携わっておられるが、我々の時代と今の子供について感じることは、親の生き方、考え方が子供にそのまま生き写しになることがPTAに携わるようになってから良くわかったことである。昔は親が厳しく躰をして、尚且つ近所の怖いおじさん、おばさんにしかられたが、今は親が躰という義務を果たさず、先生に権利として苦情だけを言う。近所付き合いも無くなり、誰も何も言わないのは寂しい限りである。神戸市の健全育成委員長をしていたとき、今の子供たちについて思うこと、考えることについての発表会で「喧

嘩のすすめ」について話したことがある。我々の時代はよく喧嘩をしたが、今はそれが抑えられてきた結果、返って反動が出ているのでは！？と感じている。喧嘩により殴られた痛みを感じ、殴ったほうも手の痛みを感じ、もっと痛いのはお互いの心。このような痛みを知ることで喧嘩の限度を知ることができた。これを知らないから、いきなりナイフを使うことになる。従って小さな喧嘩はどんどんやるべきということ話をした。今は親が子供を殴れなくなっている。我々の時代は女の子でも殴られ、痛いからもう止めておこうという気になった。先生も自信を持って殴っていたように思う。小さな痛みを知っているので大事には至らなかった。人を殺すということに対する感覚が全く違ってきているように感じる。人の痛みを知ることの出来る子供をどのように育てるかが大事だと思っている。

(3) 耐震化工事の必要性については、震災でなくなられた方の8割近くは建物の倒壊によるものであり、命を守るための建物が凶器になってしまった反省から。特に被害の大きかったのは昭和56年の建築基準法改正前の建物で、当時の基準は今の基準の7割程度の強度に定められており、且つ経年劣化も在り被害が大きかった。そのような建物について、神戸市は無料で耐震診断しているし、地震に耐えられるよう改修する工事に対して助成もしている。よく聞く話として、あの大地震に耐えたのだから今後も大丈夫だとか、もう二度とあのような地震は来ないと言われていたが、南海、東南海地震は高い確率で発生すると言われており、また揺れ方も、阪神大震災では15秒程度の大きな短周期の揺れであったが、南海、東南海地震は船が揺れるような長周期で大きな横揺れが神戸でも5分程度続くと予想されている。また阪神大震災で痛んだ建物がそのような揺れに耐えられるかが心配である。震災直後の半壊、全壊等の判定は、応急危険度判定で、きちんとした耐震診断ではなかった。今の診断は一枚一枚の壁の強さが、建物の重さに耐えられるかを計算するので当時のものとは全く違うものであるため、今の耐震診断を受ける必要がある。当時の所有者はその後30年以上経過し皆さん高齢化し年金生活をされている人も多いので、診断や改修工事は億劫で、費用も掛かると敬遠しがちであるが、再考が必要である。

耐震化には3つの要素がある。1つ目は今の建物の状態を知ること(耐震診断)。木造住宅の場合柱と梁で囲まれた壁がどれくらい地震に対して辛抱してくれるかということになる。これに筋違がはいっていると変形しにくくなる。このような壁の強さを一枚一枚調べ、建物の重さに対してどの程度の強度があるかを調べるのが耐震診断である。次に2つ目の要素として、建物を強くする(耐震改修)必要があるが、その方法としては筋違を入れる、壁が変形しにくくするよう分厚い合板を柱と梁の間に張ってやるとよい。これは部屋の中からでも外からでも可能である。地震時たて揺れで柱が土台から抜けられないよう金物をつける事も大切です。3つ目の要素は、地震時に筆筒の下敷きになったりTVが飛んできたり、また倒れた家具等で扉が開かなくなり避難できないことが多かったので、家具を固定したり筆筒が倒れても安全な向きにベッドを置くといったように“すまいかた”を考えることが大事になる。

耐震など住宅について相談するには“神戸市すまいの安心支援センター すまいるネット”が、三宮サンパルビル4階にあり、水曜日以外は土日祝日も経験豊かな建築士や生活情報センターの相談員が電話(神戸078-222-0005)でも相談にのってくれます。

3. ゆうかり大好きコアラさんの地域瓦版

明日23日、先月のゲストの山下さんが頑張っておられる下町レトロに首っ丈の会から第34回下町遠足ツアー「レトロな兵庫、湊川、福原、新開地編」があります。朝10時JR神戸駅西口集合、会費3000円で飲食代、教室代を含みます。来月は2月28日(日)長田丸五市場、六間道、鉄人28号辺りをツアーします。また29日締め切りでいかなご検定があります。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：buyou49@nifmail.jp